

枯れても財産！ ～立枯れ木の管理～

林業試験場 森林資源部 保護グループ 小野寺 賢介

研究の背景・目的

立枯れ木の保残が推奨されるようになりました。しかし、具体的な機能や森林における動態など不明な点も多く、立枯れ木の管理は机上の空論となっています。立枯れ木によって何種類の生物が保全できるのか？ 立枯れ木はどのくらいの期間立ったままているのか？ 調査結果を報告し、トマツ人工林施業での立枯れ木管理方法について提案します。



研究の内容・成果

立枯れ木は何種類の生物に利用されるのか？

北海道の哺乳類なら17種、森林性の鳥類なら35種が利用します。

トマツ立枯れ木を利用する甲虫 100種類以上！

本当に昆虫はムシできない存在でした。



立枯れ木は何年ぐらいで倒伏してしまうのか？

樹木の枯死によって発生する立枯れ木・・・

年とともに腐朽が進行して・・・

最後には倒伏して消失します。

10年で半分ぐらいは倒伏してしまう

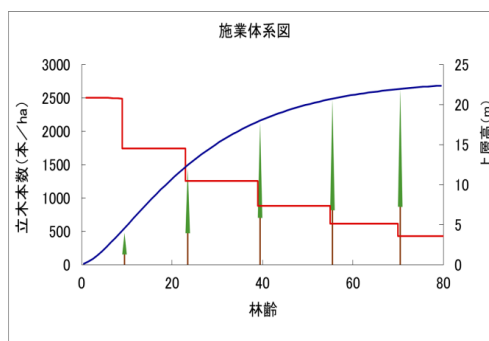


施業体系に立枯れ木管理を組み込んだ案

右図は、空知地方の一般的な施業体系です。この体系にあわせて、3回目以降の間伐の時に不良木を立枯れ木にする管理計画を立案してみました。3回目間伐時に3本、4回目に2本、5回目に2本の立枯れ木を創出する予定としました（本数はあくまでも一案です）。

不良木を立枯れ木にして低コスト

巻き枯らしや林業機械による創出方法があります。



林齢(年)	39	55	70	80
間伐回数(回)	3	4	5	主伐
立枯れ木新規創出(本)	3	2	2	
立枯れ木期待合計本数(本)	3	3.2	3.2	1.7

今後の展開



カラマツ林に生息する生物やカラマツ立枯れ木の寿命などについても調査していく必要がありますが、まずは虫害発生リスクの評価が不可欠です。特に生立木を攻撃して枯損させてしまうカラマツヤツバキクイムシには注意が必要です。もし被害などが確認されましたら、林業試験場までご連絡下さい。